

2022年度の事業

2023年5月24日

一般社団法人 日本音楽著作権協会



(各棒グラフの上の数字はそれぞれ実績額 単位：億円)



■ 徴収額

2021年度実績額比122億8千万円の増となりました。

サブスクリプションサービスや動画投稿サービスが好調を維持したインタラクティブ配信に加え、各種行動制限（新型コロナウイルス感染対策）の緩和が追い風となった演奏等も大幅な増となり、全体として、これまでの過去最高であった2019年度の実績額（1,176億9千万円）を上回りました。

■ 分配額

2021年度実績額比96億7千万円の増となりました。

インタラクティブ配信が好調を維持したほか、演奏等も大幅な増となり、全体として、これまでの過去最高であった2020年度の実績額（1,206億3千万円）を上回りました。

2022年度 使用料等徴収額

分野・種目	実績額（千円）	前年度比（%）
演奏	56,015,674	112.6
演奏等	20,851,097	129.1
放送等	28,974,264	103.6
有線放送等	4,400,777	97.7
映画上映	353,923	118.3
外国入金演奏	1,435,610	176.7
録音	16,917,801	92.6
オーディオディスク	7,528,851	92.8
オーディオテープ	214,772	119.4
オルゴール	8,448	109.4
映画録音	78,885	127.1
ビデオグラム	8,627,956	89.7
外国入金録音	458,886	159.5
出版	657,788	85.6
特定目的複製	4,259,081	89.9
広告目的複製	1,607,892	96.4
ゲーム目的複製	2,651,189	86.3
貸与	528,660	75.8
複合	50,535,143	118.9
通信カラオケ	5,868,313	116.1
インタラクティブ配信	44,666,829	119.3
補償金合計	105,799	2332.8
合計	129,019,948	110.5

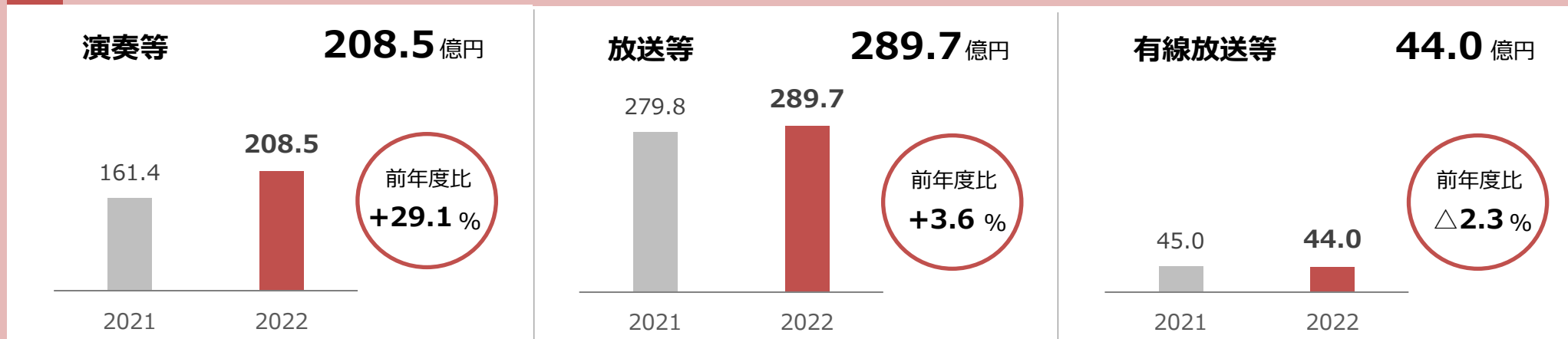
2022年度 使用料等分配額

分野・種目	実績額（千円）	前年度比（%）
演奏	55,246,687	107.5
演奏等	20,317,292	127.7
放送等	28,992,180	98.1
有線放送等	4,491,465	94.6
映画上映	295,616	78.2
外国入金演奏	1,150,131	147.1
録音	17,314,274	96.7
オーディオディスク	7,477,287	90.9
オーディオテープ	208,081	115.1
オルゴール	8,437	108.7
映画録音	77,321	121.6
ビデオグラム	9,187,830	100.7
外国入金録音	355,316	121.0
出版	682,000	90.6
特定目的複製	4,495,705	105.3
広告目的複製	1,673,187	107.0
ゲーム目的複製	2,822,518	104.3
貸与	595,451	69.7
複合	47,268,544	115.8
通信カラオケ	5,800,859	111.8
インタラクティブ配信	41,467,685	116.4
補償金合計	45,200	752.9
合計	125,647,864	108.3

※各種目の実績額の和が「合計」と一致しないのは、それぞれ千円未満を非表示としているためです

1 演奏

(各棒グラフの上の数字はそれぞれ徴収実績額 単位：億円)



■ 演奏等

上演・演奏会等については、入場定員等の制限が緩和され、大規模コンサートの開催件数も増加したことなどから、2021年度実績額を大きく上回りました。また、演奏等全体としても上演・演奏会にけん引され、2021年度実績額を大きく上回りました。

■ 放送等

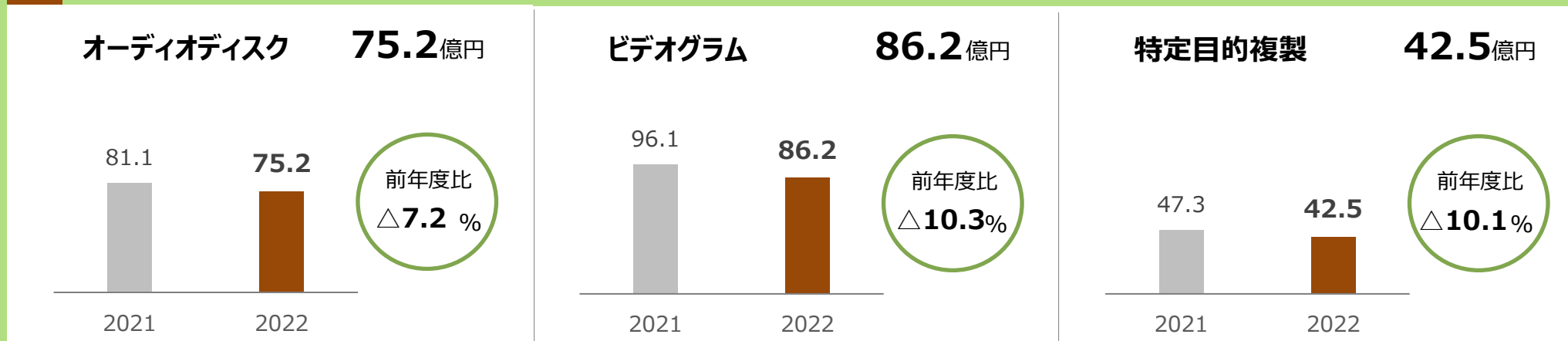
番組放送については、使用料の算定基礎となる各事業者の2021年度放送事業収入が全体的に好調であったことから、2021年度実績額を上回りました。

■ 有線放送等

有線ラジオ放送・有線テレビ放送については、いずれも2021年度実績額を下回りました。

2 録音 特定目的複製

(各棒グラフの上の数字はそれぞれ徴収実績額 単位：億円)



■ オーディオディスク

2022年のCD・レコード等生産実績（金額ベース）が2021年を上回るなど、コロナ禍からの回復傾向が一部に見られるものの、管理作品を収録したヒット製品が少なかったことなどから、2021年度実績額を下回りました。

■ ビデオグラム

パッケージから配信への移行（サブスクリプションサービスの普及等）が進んでいること、前年度に大ヒット製品があったことなどから、2021年度実績額を下回りました。

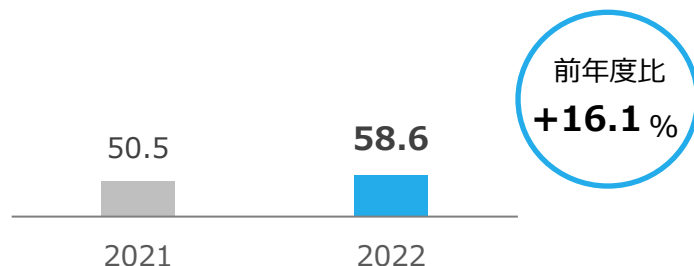
■ 特定目的複製

広告目的複製については、自動車関連の広告で利用が減少したことなどから、2021年度実績額を下回りました。ゲーム目的複製については、家庭用ゲームにおける管理楽曲の利用が低調だったことなどから、2021年度実績額を下回りました。

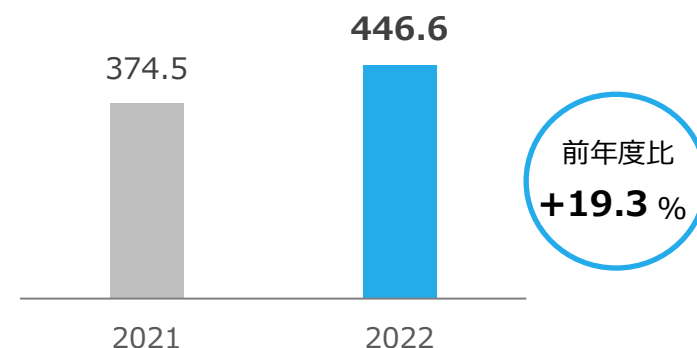
3 複合

(各棒グラフの上の数字はそれぞれ徴収実績額 単位：億円)

通信カラオケ 58.6 億円



インタラクティブ配信 446.6 億円



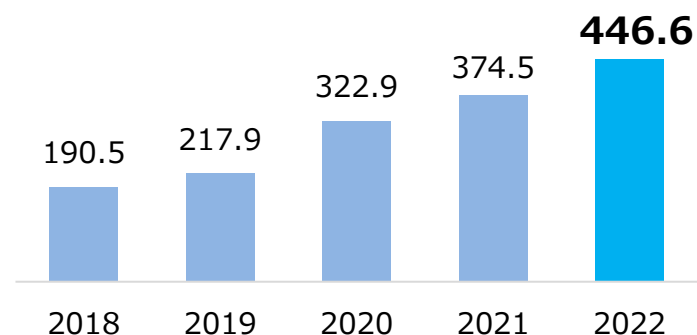
■ 通信カラオケ

飲食店の営業に対する各種制限（新型コロナウイルス感染対策）の緩和に伴い、通信カラオケ端末の稼働台数が増加したことなどから、2021年度実績額を大きく上回りました。

■ インタラクティブ配信

パッケージから配信への移行（サブスクリプションサービスの普及等）が進んだことなどから、2021年度実績額を大きく上回りました。

インタラクティブ配信実績額の推移（単位：億円）



■ YouTubeに関する新たな許諾契約の締結

YouTubeにおける管理楽曲の利用について、Google社との間で新たな許諾契約を締結しました。この新たな契約の下で、管理楽曲の利用状況をより精緻に使用料の分配に反映させることを目的として、「Content ID」（YouTube上の著作権で保護されたコンテンツを著作権者が保護、管理するためのツール）の活用を本格的に開始しました。

■ メタバースでの音楽利用についての告知

メタバースでの音楽利用に対する関心が高まっていることを受け、インタラクティブ配信の使用料規定を適用して許諾することを具体例付きで案内する解説を作成し、コーポレートサイトで告知しました。

■ 放送番組の同時配信サービスに関する協議

民放在京キー局が4月から本格的にサービスを開始したことを受け、その動向を注視しつつ、ビジネスモデルやサービスの内容に応じた適正な使用料評価の在り方について、利用者団体や放送事業者との間で協議を継続しました。

■ 外国入金増加等に向けた取り組み

(1) 動画コンテンツ情報等の登録

管理楽曲が収録された動画コンテンツ（アニメ等）の情報を各国の著作権管理団体に迅速に提供することと、そのような動画コンテンツを各国の著作権管理団体が的確に特定できるようにすることを目的として、次の①②を行いました。

- ①各国の著作権管理団体が参照するデータベースへの登録作業を効率化するシステムの開発
- ②動画コンテンツ（アニメ等）やそこに収録された管理楽曲の現地語表記タイトル情報のデータベースへの追加登録

(2) 外国著作権管理団体との管理契約の締結

2023年1月、SAYCE（エクアドル共和国の著作権管理団体）と演奏権および録音権について相互管理契約を締結しました。

■ 音楽教室

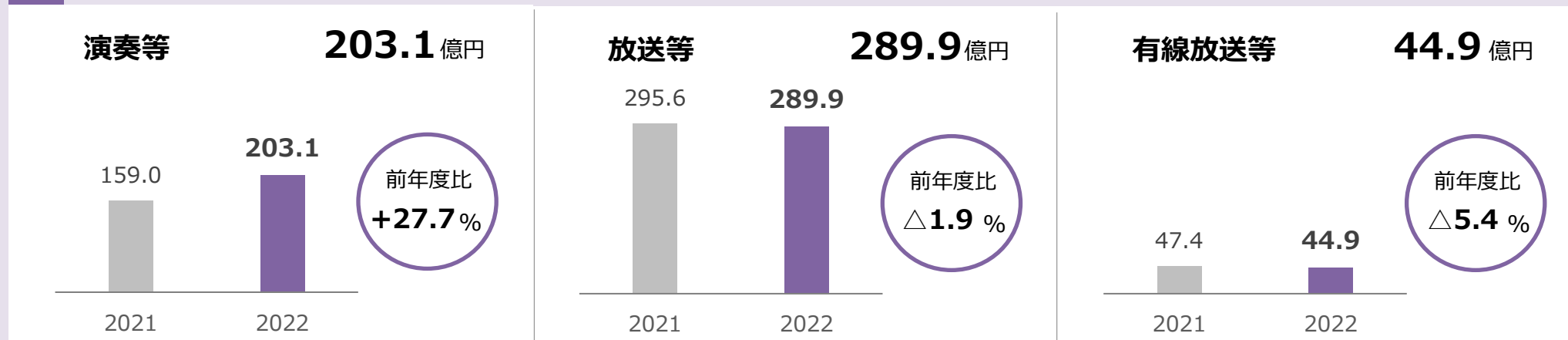
音楽教室における演奏に著作権が及ばないことの確認を求めて一部の音楽教室事業者が提起した訴訟について、最高裁判所第一小法廷は、教師の演奏および録音物の再生に関して、音楽教室事業者の上告受理申立てを不受理とする決定（7月28日付け）をした上で、10月24日、生徒の演奏に関してJASRACの上告※を棄却する判決を言い渡しました。

これにより、音楽教室における教師の演奏および録音物の再生に著作権が及ぶこと（生徒の演奏には著作権が及ばないこと）が確定したことから、手続きの推進に向け、訴訟を提起した音楽教室事業者らで構成される団体との協議を行いました。

※2021年3月18日に知的財産高等裁判所がJASRACの主張を一部退ける判決を下したことから、同月31日に上告提起および上告受理の申立てを行いました。

1 演奏

(各棒グラフの上の数字はそれぞれ分配実績額 単位：億円)

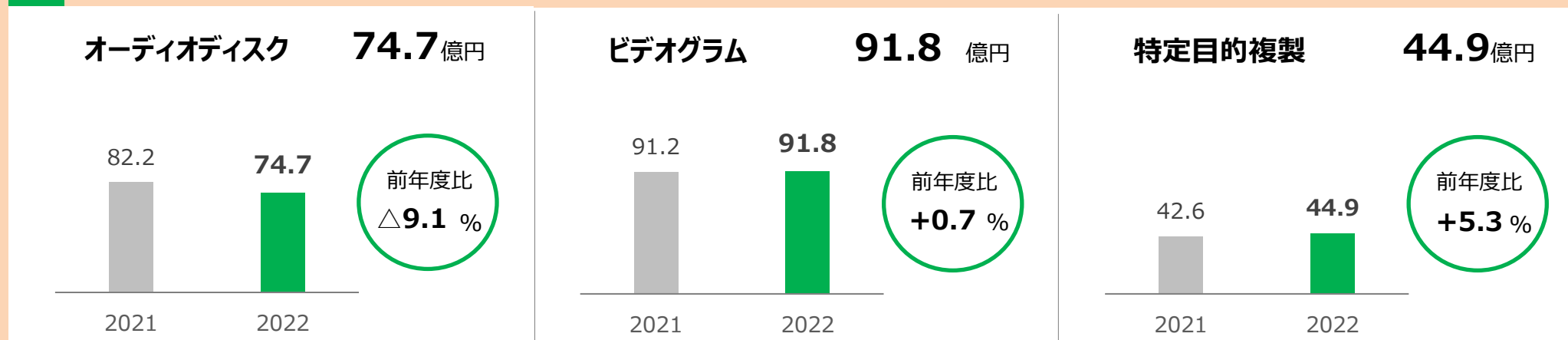


■ 科目ごとの分配対象作品数

科目		主な分配対象使用料	分配対象作品数
演奏等	上演・演奏会等	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	241,989 作品
	社交場	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	35,441 作品
	カラオケ	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	322,129 作品
放送等	NHK、民放地上波ラジオ、民放地上波テレビ	2021年10月 ～ 2022年9月 使用分	808,779 作品
	コミュニティ放送、放送大学、民放衛星ラジオおよび民放衛星テレビ	2021年4月 ～ 2022年3月 使用分	
	CM放送	2021年10月 ～ 2022年9月 入金分	490 作品
有線放送等	有線ラジオ放送	2021年4月 ～ 2022年3月 入金分	418,645 作品
	有線テレビ放送	2021年4月 ～ 2022年3月 使用分	226,418 作品

2 録音 特定目的複製

(各棒グラフの上の数字はそれぞれ分配実績額 単位：億円)



■ 科目ごとの分配対象作品数

科目		主な分配対象使用料	分配対象作品数
オーディオディスク	大手レコード会社など包括契約者	2022年1月 ～ 2022年12月 使用分	511,993 作品
	包括契約者以外の利用者	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	
ビデオグラム	大手映像ソフト制作会社など包括契約者	2021年10月 ～ 2022年9月 使用分	164,130 作品
	包括契約者以外の利用者	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	
特定目的複製	広告目的複製	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	762 作品
	ゲーム目的複製	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	2,732 作品

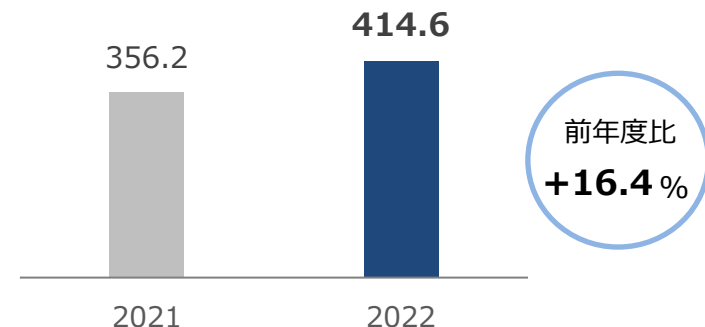
3 複合

(各棒グラフの上の数字はそれぞれ分配実績額 単位：億円)

通信カラオケ **58.0** 億円



インタラクティブ配信 **414.6** 億円



■ 科目ごとの分配対象作品数

科目	主な分配対象使用料	分配対象作品数
通信カラオケ	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	311,855 作品
インタラクティブ配信	2022年1月 ～ 2022年12月 入金分	2,399,537 作品

■ 管理対象作品数

76,837,266作品

(2023年5月12日時点でのCIS-Net※登録数。JASRACが登録した**2,058,766作品**を含む)

■ 分配対象作品数・権利者数（全分野を通じたユニーク数）

		2021年度	2022年度
分配対象作品数		2,826,076 作品	2,990,954 作品
分配対象権利者数 (内国)	著作者	76,252 人	79,765 人
	音楽出版社	2,895 社	3,025 社
分配対象権利者数 (外国)	著作者	383,105 人	392,345 人
	音楽出版社	48,318 社	48,888 社
		※117の外国団体を通じて分配	※120の外国団体を通じて分配

※CIS-Net：CISACが開発した国際的な作品情報データベースで、加盟各団体が管理作品データを提供し、各団体の管理作品情報等をネットワーク上で共有している。

■ 分配規程等の変更

管理委託範囲選択区分の細分化（「演奏権等」の区分の細分化）に対応して、著作物使用料分配規程および同細則を次のとおり変更しました。

- ・ ホール型ライブハウス（ライブ観覧スペースにいる客に対する食事の提供がない施設）の分配方法に係る規定を新設しました。演奏会型ライブハウス（演奏者が日替わりで出演し、多種多様な作品が演奏利用される施設）と同様、利用者・委託者からの利用曲目報告およびJASRACが収集したセットリスト情報に基づいてセンサス分配を行います。
- ・ 歌謡教室（受講者に歌唱を教える事業を行う施設）の使用料について、カラオケ社交場分配基金に区分して分配する対象をカラオケ教室（カラオケ機器を使用して歌唱の指導を行う施設）に限定しました。なお、カラオケ教室以外の歌謡教室の使用料については、音楽教室の使用料として分配します。

■ 分配明細書のデジタル化

2023年6月分配期からの開始に向けて、デジタル化のためのシステム構築等を行いました。

■ 作品届未提出への対応

作品届が提出されない作品については、利用実績を把握しても、関係権利者とその分配率を確定できず分配保留となります。これを解消するため、内国作品について「著作物権利関係確認書兼作品届」の活用を進め、外国作品についても音楽出版社・外国団体に対して作品届の提出を依頼しました。これらの結果、24,143作品（4億5千万円）の分配保留の解消につながりました。

■ 授業目的公衆送信補償金の分配開始

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）から受領する授業目的公衆送信補償金について、分配規程を新たに制定し、2023年3月分配期から分配を開始しました。

■ 管理手数料実施料率の引き下げ

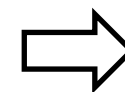
経常費用の支出が予算内に収まる見込みとなったことから、2023年3月分配期に適用する管理手数料実施料率の一部を引き下げました。

また、2023年度予算の策定過程において、経常収益が経常費用を上回る見込みとなったことから、2023年度の各分配期に適用する管理手数料実施料率の一部を引き下げることを決定しました。

使用料の区分	2022年 6月,9月,12月 分配期	2023年3月 分配期	2023年度
演奏等(大規模演奏会等)	15%	13%	12.5%
演奏等(カラオケ)	24%	22%	22%
演奏等(ビデオ上映)	25%	25%	23%
演奏等(遊技機上映・演奏)	15%	15%	13%
放送等	8.5%	6.5%	8.5%
有線放送等	9.5%	7.5%	9.5%
業務用通信カラオケ	9%	7%	9%
インタラクティブ配信	9.5%	7.5%	9.5%
授業目的公衆送信補償金	9.5%	7.5%	9.5%
映画上映	25%	25%	23%

分配額に対する経常費用の割合

10.3%
(2021年度)



9.9%
(2022年度)

■ 演奏

刑事	民事					合計
	告訴	本案訴訟	仮処分	民事調停	支払督促	その他
0件 (0件)	0件 (0件)	0件 (1件)	1,219件 (656件)	13件 (11件)	21件 (22件)	1,253件 (690件)

() 内は2021年度

■ 録音

無断複製したDVDをインターネット上のオークションで販売していた事案など計3件の刑事告訴を行ったほか、使用料滞納について5件の民事調停および2件の支払督促を申し立てました。

■ 公衆送信

ファイル共有ソフトを利用して音楽ファイルを無断でアップロードしていた事案1件の刑事告訴を行ったほか、リーチサイト・リーチアプリについて、広告主団体に対する広告出稿抑止の要請、広告事業者に対する広告削除の要請を実施しました。

■ 著作者を対象とする取り組み

著作権の知識を身に付け、JASRACをより身近に感じてもらうとともに、管理委託契約の締結を促進することを目的として、若手音楽クリエイターを対象としたイベント「JASRAC Creator's Path Vol.11」を開催しました。

■ 音楽出版社を対象とする取り組み

音楽出版社に対し、最新の配信サービスの動向など権利者から高い関心が寄せられている情報を中心として、インタラクティブ配信の管理業務の現状についての説明を行いました。

■ 管理委託契約申し込みのオンライン受付を開始

権利者の利便性の向上等を図るため、eKYC（オンラインでの身元確認）を行うことで、KENDRIX（23ページ参照）およびコーポレートサイトからのオンラインによる管理委託契約の申し込みの受付を開始しました。



	著作者	音楽出版社	その他	合 計
新規信託契約 締結者数	396 (295)	80 (82)	0 (2)	476 (379)
新規入会者数	85 (71)	11 (12)	0 (4)	96 (87)

() 内は2021年度

■ 著作権制度を広める活動等

寄付講座等（信州大学および放送大学学園）を通じた著作権の普及啓発や、著作権法等奨学研究会（東京大学）を通じた著作権法の研究支援の取り組みを継続しました。

■ 学習まんが「音楽の著作権のひみつ」

若年層への著作権の普及啓発活動の一環として、JASRACが企画・制作に協力した小学生向けの学習まんがである「音楽の著作権のひみつ」が株式会社Gakkenから発行されました。同書は全国の小学校、公立図書館、児童館に寄贈されました（合計25,500部）。



■ シンポジウム「AI生成楽曲と著作権」の開催

「AI生成楽曲と著作権」と題するシンポジウムを開催し、今後のAI技術と創作活動の関係性について、音楽クリエイター、AI開発者および法律家を招いて議論を行いました。

動画視聴ページ



■ SNS公式アカウントの開設

2023年1月にTwitterおよびFacebookの公式アカウントを開設しました。

https://twitter.com/JASRAC_1939

<https://www.facebook.com/jasrac1939/>

Twitter



Facebook



■ 新たな動画コンテンツの配信開始

JASRACの事業および音楽著作権の仕組みの周知を図ることを目的として、新たな動画コンテンツの配信を2023年2月から開始しました。

https://www.youtube.com/jasrac_official

YouTube



■ アジア・太平洋地域における音楽文化の普及発展のための調査・研究・開発

グローバル・デジタル・サービス・データ交換（GDSDX）プロジェクト※のためのソフトウェアの開発を進めました（2023年度に稼働予定）。

※CISACアジア太平洋委員会に所属する著作権管理団体間で、音楽・動画配信コンテンツの音源情報と著作権管理団体が管理する音楽の作品情報（ISWCまたは作品コード）をひも付けた情報を共有するためのプロジェクト



GDSDX
Global Digital Service Data Exchange

■ 在外研究支援「JASRAC国際フェローシップ」

著作権を含む知的財産権の研究者が海外の研究機関で一定期間研究を行うことを支援する事業「JASRAC国際フェローシップ」（JASRAC Global Fellowships）を創設しました。
知的財産法を専門とする有識者3名の委員で構成される「JASRAC国際フェローシップに係る研究員の選考に関する委員会」の推薦を受け、第1回在外研究員を大阪大学大学院人文学研究科の後期博士課程に在籍する加藤賢さんに決定しました。

JASRAC国際
フェローシップ



■ 私的複製補償金制度に関する取り組み

7月、CISAC（著作権協会国際連合）のガディ・オロン事務局長、ベンジャミン・ン・CISACアジア太平洋地域代表およびKOMCA（韓国の著作権管理団体）のチュ・ガヨル会長が伊澤一雅理事長および須子真奈美常務理事とともに都倉俊一文化庁長官を表敬訪問し、ガディ・オロン事務局長から、機能的で公平な私的複製補償金制度の構築を要望する旨が伝えられました。



8月、ブルーレイディスクレコーダーを私的録画補償金の対象に追加する内容の著作権法施行令改正案について意見募集（パブリックコメント）が実施されたことを受け、改正に賛成する意見を提出するとともに、18の権利者団体と連名で改正を強く支持する旨のプレスリリースを行いました。

10月、JASRACが社員として運営に参画している一般社団法人私的録音録画補償金管理協会（sarah）が私的録画補償金についても指定管理団体となり、ブルーレイディスクレコーダー等に係る補償金の徴収開始に向けた準備を進めました。

■ 戦時加算義務解消に向けた取り組み

5月、BUMA・STEMRA（オランダの著作権管理団体）が、7月、APRA・AMCOS（オーストラリアおよびニュージーランドの著作権管理団体）が、戦時加算義務に係る権利の放棄に同意しました。これまでに17カ国1地域の28団体に働きかけを行い、上記の団体を含め、10カ国13団体から権利放棄の同意を得ています。

■「KENDRIX」のサービスを開始

ブロックチェーン技術を活用した存在証明機能とeKYC機能を備える楽曲情報管理システム「KENDRIX」の正式サービスを10月31日に開始しました。

KENDRIXは、「すべての音楽クリエイターが Creation Ecosystem に参画できる世界へ」というコンセプトの下で、音楽クリエイターが自ら行う楽曲管理におけるDXを支援することを目的としたクリエイターDXプラットフォームです。

2023年2月および3月に、作品届提出機能の追加、登録可能な音声ファイル形式の追加等のアップデートを行いました。

KENDRIX



<https://kendrix.jp>

KENDRIX Media



<https://kendrixmedia.jp>

■ Creators for Ukraine

CISAC（著作権協会国際連合）が実施している「Creators for Ukraine」※と連携して、ウクライナのクリエイターらを支援する取り組みを行いました。



※ ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により被害を受けているウクライナのクリエイターや著作権管理団体、その職員などの支援のため、2022年3月16日にCISACが220以上の加盟団体と協力して立ち上げたプロジェクト。

(1) ウクライナ支援基金への送金

JASRACからは2022年3月25日に1,500万円を送金したほか、6月と9月には委託者および役職員から募った支援金合計199万8千円を送金しました。これらの支援金はNGO-UACRR（ウクライナの著作権管理団体）の会員や職員への支援等に充てられました。

(2) 創作者による支援声明への署名

ウクライナ創作者との連帯を誓い、ロシアの侵攻を終わらせるよう求める署名を日本の創作者に呼びかけました。

(3) Songs for Ukraine

ウクライナの音楽の利用を促し、ウクライナの創作者への使用料分配を増加させるキャンペーン「Songs for Ukraine」の一環として、ウクライナ出身の委託者ナターシャ・グジー氏のインタビュー記事等をコーポレートサイトに公開しました。

ウクライナ支援
特設ページ



一般社団法人 日本音楽著作権協会

JASRAC[®]